



第362号  
2016年11月  
〒461-0004  
名古屋市東区葵2丁目6-35  
カトリック名古屋教区広報委員会  
「教区ニュース」編集部  
電話 (052) 935-2223  
FAX (052) 935-2254  
印刷所 株式会社 荒川印刷  
毎月第1日曜日発行



「聖書週間」はすべての人、特に信徒が、聖書に「より強い関心をもち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。各教区では、聖書への関心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。自分でも積極的に聖書に近づくため、たとえば、毎日欠かさず聖書を1章ずつ読むことや、ミサの聖書朗読の当日分を毎日読むことも勧められています。

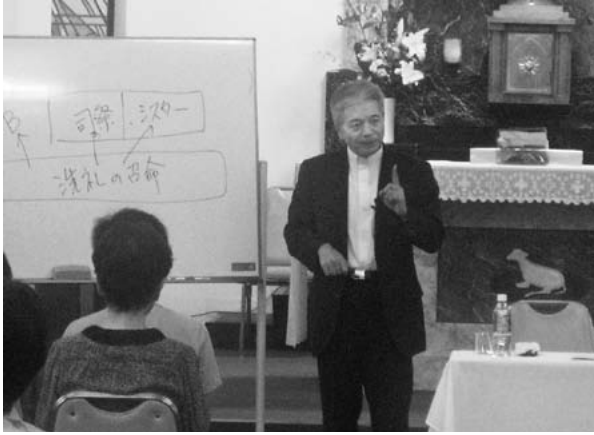
教区ホームページ

### 福音のひびき

11月の説教者
6日 年間第32主日 山内 信行 (熱田教会)
13日 年間第33主日 光山 相泰 (名古屋教区)
20日 王であるキリスト ジョン・シーランド (神言修道会)
27日 待降節第1主日 増田 健 (緑ヶ丘教会・鳴海教会)

## 福井教会・北陸地区一粒会の集い

### 松浦司教 「聞こえない神の声を聴く」



各小教区からたくさん  
の参加者を得て、北陸地  
区一粒会の集いが8月  
28日、福井教会で開催さ  
れた。

「聞こえない神の声を聴く」というテーマで松浦司教は、まず自身を折を経て司祭になった経緯、悩み祈りながら神の呼びかけにこたえていった過程を話した。

「聞こえない神の声を聴く」というテーマで松浦司教は、まず自身を折を経て司祭になった経緯、悩み祈りながら神の呼びかけにこたえていった過程を話した。

「聞こえない神の声を聴く」というテーマで松浦司教は、まず自身を折を経て司祭になった経緯、悩み祈りながら神の呼びかけにこたえていった過程を話した。



別棟2階の信者会館にて昼食をとった。昼食の後、13時再びバスに乗り、金沢教会を出発。途中、織屋跡、養生所跡、湯屋跡を通り抜けて、浦上から流された戸主のキリシタン14名が、明治3(1870)年1月に収容された建物跡を見ながら卯辰山を上った。13時30分、巡礼碑の前で松浦司教の司式で厳かにミサが行われた。私達48人と金沢教会他、北陸プロテスタントの信徒・司祭たちも参加した。

## 名古屋教区北陸巡礼 「金沢卯辰山殉教者祭ミサ」に参加して

今年も卯辰山の殉教者祭ミサが9月11日に行われた。信徒協主催のツアーバスが朝8時に布池教会を出発し、司教はじめ48人の参加者が金沢教会へと向かった。車内では、高島役員から卯辰山殉教について説明があった。



「長崎キリシタン殉教者碑由来」によると、キリシタン弾圧で信仰を翻さなかった長崎の浦上キリシタンのうち、上村キリシタンのうち、政府による明治2(1869)年の金沢藩預けの5百余人は、明治6(1873)年に送還されるまで、卯辰山の花菖蒲園と湯屋跡の牢屋に幽閉されていた。その間、百人が折檻、飢餓や病魔で命を落とした。昭和43(1968)年8月11日、カトリック金沢教会は、このことを後世に伝えるため、ここに碑を建立した。

また高山右近は、キリストの教えに忠実に従い大名として戦国時代を生きた抜き、前田利家に招かれ、「武勇の他、茶湯、連歌、俳諧にも達せし

### ユスト高山右近の列福式募金のお願い

ユスト高山右近の列福式が来年2月7日、大阪市の大坂城ホールで開催されることが決まりました。この列福式の募金をお願いします。皆様のご協力をお願いします。皆様からいただく献金はつぎのように使われます。

- ①新福者の霊性の理解を深めるための企画
- ②右近を紹介するメディア類の制作
- ③当司教協議会が主催・後援する列福関連の諸行事
- ④列福式の開催に関連する諸費用

送金先 郵便振替 00160-1-483345  
(宗)カトリック中央協議会列福献金口  
問合せ 〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10  
日本カトリック司教協議会列聖推進委員会  
☎03-5632-4445 Fax 03-5632-4465  
注) カトリック新聞より一部転載

### 「宣教地召命促進の日(宣教地司祭育成の日)」(献金)12月4日

日本にはこれまで海外から多くの宣教師が来て、キリスト教の信仰をもたらしてくれました。現在の信徒数に対して司祭の数は確かに多いでしょう。でも、キリストを知らない人の数を数えると、もっともっと司祭が必要です(日本の総人口に対する割合は、宣教師を含めても約9万1千人に一人です)。

宣教地召命促進の日は、日本だけでなく世界中の宣教地において司祭の育成が大切なことに気づき、そのために祈り、献金を捧げるよう呼びかけています。この日の献金はローマ教皇庁に集められ、全世界の宣教地の司祭育成のために援助金として送られます。

### 「いつくしみの特別聖年」閉幕ミサのご案内

名古屋教区指定の巡礼教会では、いつくしみの特別聖年閉幕ミサを下記日時に行います。是非ご参加いただきますようご案内いたします。

(城北ブロック) 布池教会	11月20日午前9時30分
(城東ブロック) 南山教会	11月20日午前9時30分
(城南ブロック) 東海教会	11月13日午前9時30分
(愛岐ブロック) 多治見教会	11月20日午後2時
(濃尾ブロック) 美濃加茂教会	11月13日午後2時
(三河ブロック) 豊橋教会	11月13日午前9時30分
(北陸ブロック・福井地区) 福井教会	11月13日午前10時
(北陸ブロック・石川地区) 金沢教会	11月13日午前10時
(北陸ブロック・富山地区) 富山教会	11月13日午前10時

# 白浜司教叙階式・広島教区 おめでとうございます

## 司教は名誉職ではなく 奉仕職



広島教区はアレキシオ白浜満被選司教の叙階式を9月19日、教区カテドラル世界平和記念聖堂(職町教会)で行った。白浜司教の出身地である長崎教区や神学院の関係者など教区外から多数の参列があり、「福音の

ためならどんなことでも」をモットーに掲げる新司教の誕生を祝った。前田万葉大司教(大阪教区)は説教で「司教は名誉職ではなく奉仕職」であり、どんな状況でも奉仕者として皆に仕えることと激励した。

### 教皇フランシスコ

## マザー・テレサを列聖

バチカンで9月4日



【バチカン9月4日CNS】教皇フランシスコは9月4日、コルカタの福者テレサを列聖し、新聖人の勇気と貧しい人への愛をたたえた。荘厳な儀式で聖人と宣

は自然と彼女を「マザー・テレサ」と呼び続けます」と教皇は列聖式ミサで語り、会衆の拍手を誘った。(カトリック中央協議会HPより転載)

# ワールドユースデー2016 クラクフ大会に参加して

ポーランドのクラクフで開催された「ワールドユースデー(WYD)2016」に名古屋教区から参加した2人の方のレポートを紹介します。



7月23日から8月6日に開かれたワールドユースデー(WYD)クラクフ大会に参加した。進学の関係で上京したため東京教区の方々と、4月から始まった事前準備会から大会を終え帰国するまで、共に活動させてもらった。

WYDは教皇ヨハネ・パウロ2世が1984年に、全世界の青年に「受難の主日」に集うようにと呼びかけたことから始まった。1週間の日程で行われ、2〜3年に一度世界各地の持ち回りで開催される。大会全体が聖週間をなぞらえており、「世界の若者が一つになり、教会の本質であるキリストの受難と復活を味わう」意味が込められて

いる。そして今回は、聖ヨハネ・パウロ2世の出身地ポーランドのクラクフでの開催となった。一番印象に残っている大会の場面は、16キロの道のりを徒歩巡礼してたどり着いた、いつくしみのかんパスでのできごとだ。国籍や人種、言葉の壁を越えて約250万人の青年が、神という唯一の存在を求めて集まり祈った。神さまのパワー、祈りのパワー、青年たちの信仰心の力強さを肌で感じ、感動したのを鮮明に覚えている。

日本と他国の本当に多くの青年たちと出会ったことも大きな収穫だった。日本のカトリック信者には若者が少なく、寂しさを感じることもあった。

ポーランドのホストファミリーと小教区の信者さん、若者たちとの出会い、クラクフで体験した世界中の若者たちとの出会いと交わり、最後まで

る。しかし今回、同じ信仰を持つ身近な仲間と出会い、短い期間でも共に助け合って生活できたことは素晴らしい体験であり、神の恵みだと思っている。

他国の青年たちと出会い、自分自身の信仰に対する考えも大きく変わった。信仰というものが決して堅苦しいものではなく、ありのままの自分と出会い、人生をより生き生きとさせてくれるものなのだと学ぶことができた。

大会終了後にはアウシュビッツ収容所に行き、そこで人間の闇の部分に触れ、なんとも言えない悲しさと、恐怖を味わった。大会期間中の輝きとは反対の空間だったが、人間が作り出した悲しみの中にも神がいてくださることを祈りの中で感じた。

この2週間の旅では、その瞬間一つ一つに神が共にいてくださった。何をしても神の愛を感じる事ができた。

(南山教会 今枝佑紀  
月報なんざん9月号より転載 一部変更)

で共に過ごした日本巡礼団の仲間たちと共に得た感動と体験は、今後の信仰生活を歩んでいく上でとても大きな力になり続けると思う。その体験は想像を越えるものだった。

以前WYDに参加した友人から、「とにかく国旗の数がすごいよ」と聞かされていたが、クラクフに入るとまさにその通りだった。各国から集まった若者たちと声をかけ合い、記念撮影し、話す。皆がカトリックの兄弟姉妹であることの安心感と連帯感をとても深く味わった。きつとそこに集まったすべての人が同じ気持ちだったと思う。互いにふだん出会うことのない国の信者として交わり、喜び、歌い、分かち合う。この開放された自由な時間の中で、やっぱり皆が心の中では平和を喜びとしていることがとても強く感じられた。

同じ目的を持って集まった、その心のパワーはとてつもなく凄いものだった。

WYDにはシリアの青年女性も来ていた。徒歩巡礼をした後に教皇様と共に集まった約200万人の前で彼女が語ってくれた。

シリアの若者は最後に「私が語ったことは、全世界の人々へのメッセージです」と言った。簡単ではないが、私たちが互いの身分や弱さ、あやまちを無条件に受け入れ合うとき、私たちがまた同時に何かを変えていける力を無条件に与えられると思った。

WYDからいただいたこの大きな学びや恵みに

初めWYDに参加し、同じ信仰を持つ兄弟姉妹との一致の力に、深い感動と学びを得ることができた。

ポーランドのホストファミリーと小教区の信者さん、若者たちとの出会い、クラクフで体験した世界中の若者たちとの出会いと交わり、最後まで

た。母国で起きている戦争のこと、いつ自分の命が奪われてもおかしくないことなど、ありのままを語った。外出しても帰宅するときに自分の家がちゃんと残っているか分からない不安の中で毎日生活をし、大切な友人の命までも奪われている中で、「神様、どこにいますか?」という彼女の声に、私も言葉を失った。教皇様は皆で手をつないで沈黙し、祈るように呼びかけた。「ここに集まった私たちは一つの家族です。今、彼女が語った声を一人の家族の声として心に留めてください。そして一緒に祈りましょう」と。

すべての人が心を一つにして祈りによって完全に一致した瞬間で、とても深い感動と強さを味わった。私はこのときまで、一致が生み出す本当の力を知らずにいた気がする。本物の一致は人の心を解放して癒しへ導くことを教えていただいた。私たちが勝手に集まったのではなく、ポーランドの一つの場所に神様が集めてくださった大きな慈しみを感じた。

### 2016年後期 青年のための聖書の学び

自分の人生を切り開きたい若者たちへ あなたの道を切り開くのはあなた!です。

対象 青年男女(18~32歳)  
場所 聖マリアの無原罪教育宣教師会名古屋修道院  
時間 午後2:00~7:50(高校生4:30まで)  
時間割 1:30~ 玄関を開けます 2:00~ 聖書「学び」 3:30~「分かちあい」  
4:00~4:30 おやつ(高校生4:30まで)  
4:30~5:45 生活の分かち合い、個人の祈り霊的読書、散歩など  
共同体と共に祈りと食事をする  
5:45~ 御聖体礼拝、晩の祈り、夕食 食費:自由献金  
7:45~ 糾明 サルヴェ・レジナ 終了  
福音書 ルカ福音書13章~16章を学びます  
11月20日、12月18日、2017年1月15日、2月19日  
連絡先 (052)782-5850  
名古屋千種区園山町1-56 聖マリアの無原罪教育宣教師会  
担当者 シスター碓(いかり)政子  
FB 青年のための聖書の学び HP <http://www.concepcionistas.jp/>

### いのちの誕生をサポートする社会に!(円ブリオ基金)

## 第16回生命尊重講演会

### 授かるいのち つなぐ喜び

~お腹の赤ちゃんとお母さんを暖かく迎える町づくりへ~

日時 11月13日(日) 午後2時~4時  
場所 南山教会マリア館2階(地下鉄中駅下車徒歩5分)  
講師 鈴木秀子氏(国際コミュニケーション学会名誉会長)  
チケット 1,000円、学生500円(当日券あり)  
主催 愛知小さな生命を応援する会  
後援 愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会 他  
連絡先 山田(052-443-1559)、杉原(052-882-8729)

一口・エンブリオ基金(Embryo)について  
エンブリオとは、8週目までのお腹の赤ちゃんのことを言います。「出産費用が足りなくて、産めない…」など、一人で悩んでいるお母さんとお腹の赤ちゃんを支援する国内初の基金です。みなさまの善意の1円でこれまでに500人の赤ちゃんが誕生しました。

感謝します。そして教皇様が言うように、私たちが同じ信仰を持つ一つの家族であることを忘れずにいたいと思います。  
(布池教会 岡本由美子)

# 教会の扉を開こう

右端 岡本由美子さん  
左端 今枝佑紀さん

# ミンダナオ子ども図書館支援 チャリティーコンサート



は、包み込むようなあたたかさ、超絶技法での情熱的表現のソロで、聴衆を魅了した。「ブラボー！」の声援にこたえて2度のアンコール演奏があった。

プログラムは、ブラームス「ヴァイオリンソナタ第2番イ長調 作品100」、ヴェータン「夢想 変ホ長調 作品22-3」、ラヴェル「ツイガリヌ」、ブラームス「ハンガリー舞曲集No.1、No.4、No.5」。

新進気鋭の女性バイオリニスト、マリリー・カンタグリルさん(フランス)によるミンダナオ子どもチャリティーコンサートが9月23日、布池教会大聖堂で開かれた。平日夕刻という時間にも関わらず約250人が来場した。

演奏の前に、松浦司教がマリリー・カンタグリルさんとピアノ伴奏の五島史馨さんを紹介した。カンタグリルさんの今回の来日目的を教会でチャリティーコンサートをするためと説明し、「祈る心で聴いていただきたい」と話した。

司教はまた、フィリピンのミンダナオ子ども図書館館長・松居友さんを紹介した。松居さんは松浦司教の大学時代の友人で、絵本作家であり、父親は絵本を出版する福音館書店の松居直さんだ。現地ミンダナオでは人々から信頼され「酋長」の称号を与えられて尊敬されているという。松浦司教は「彼自身のこれからの活動のために寄付をして、末長く支援してください」と呼びかけた。

マリリー・カンタグリルさんのバイオリン演奏

現地法人「ミンダナオ子ども図書館(MCL)」の紹介がビデオを交えて行われた。MCLは、ミンダナオの政府軍と反政府軍の武力紛争が絶えない地域にも入り、貧しい子どもたちが、絵本を通して未来への希望を抱くよう支援している。600人の子どものために大学まで行けるスカラシップを提供している。松居さんは、とりわけ厳しい状況にある子どもたち80人と家族同様に生活している。

MCLへの支援、訪問に関する問い合わせは電子メール [mclmindanao@gmail.com](mailto:mclmindanao@gmail.com) (現地日本人スタッフ/宮本さん)、Fax (0743)7416465 (日本事務局前田さん)。詳しくはウェブサイトに「ミンダナオ図書館だより」で検索。ゆうちょ振り込

## 小牧ワイナリーに1000人が来場!

### 秋の葡萄酒まつりにぎわう

社会福祉法人A.J.U自立の家(野村純一名誉司教理事)が主催する秋の葡萄酒まつりが、9月24、25日に小牧ワイナリー(小牧市大字野口字大洞2325-2)で開催された。

初醸造「ななつぼし限定ワイン」の販売もあり、二日間で約1000人の来場者があった。

24日はあいにくの雨に降られる場面もあったが、翌日は天候も回復し、ワイナリー前の芝生公園でくつろぎながらワインを楽しむ姿が見られた。

ワイナリーで働く知的ハンデいの仲間たちも、ワインやおみやげの販売、模擬店、スタン



24日はあいにくの雨に降られる場面もあったが、翌日は天候も回復し、ワイナリー前の芝生公園でくつろぎながらワインを楽しむ姿が見られた。

ワイナリーで働く知的ハンデいの仲間たちも、ワインやおみやげの販売、模擬店、スタン

11月3日は恒例の多治見修道院でのワインフェスタがあり、小牧ワイナリーでは春と秋に「葡萄酒まつり」のイベントがある。いずれも多くの来場者でにぎわうことが予想される。

(問合せ先) 小牧ワイナリー ☎056817913001 FAX056817913002

スタッフとしてがんばっていた。

小牧ワイナリーは15年4月にオープン。世界の修道院ワイン(イタリア、チェコ、ドイツ、スペイン)も販売している。カフェではパスタ、チーズ盛り合わせなどがある。自然に囲まれ、ワインを楽しむながら、ゆっくりとしたひとときを過ごすことができた。

## カトリック春日井教会設立50年

春日井教会設立50周年記念感謝ミサが捧げられます。50周年を祝い名古屋教区の皆様、是非ご参列下さいませようご案内します。

日時 11月13日(日) 午前10時より

会場 カトリック春日井教会 春日井市六軒屋町西3-9-2 ☎0568-81-8198 (教会代表)

主催・問合せ カトリック春日井教会設立50周年実行委員会

## 9月25日は「世界難民移住移動者の日」

以下は、松浦悟郎司教のメッセージ全文です。

**日本カトリック難民移住移動者委員会 委員長メッセージ**  
「移住者と難民の現実、私たちのあり方を問う」

教皇フランシスコは、今年の世界難民移住移動者の日のテーマを、「わたしたちに問いかける移住者と難民。いつくしみの福音の応答」としました。この背景には、2015年末時点で紛争や迫害を逃れ、家を追われた人の数が6530万人となり、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が統計を取り始めてから最多となった現実があります。教皇は、これはもはや「構造的な現実」であり、「今日、いつくしみの福音は以前にも増して良心を揺さぶり、他の人々の苦しみに慣れてしまわないように働きかけている」と指摘しています。また、移住者も受け入れ側の人々も、異なる文化の交わりで変化を求められますが、それを「真の発展を阻むもの」としてではなく、人間的、社会的、霊的な真の成長をもたらす機会として受け止めるようにも促しています。すべての人が世界のどこにいても、そこが「自分の家」であり、人類家族の一人として共に生きられるよう祈りましょう。

なお教皇メッセージはカトリック中央協議会のウェブサイト (<http://www.cbci.catholic.jp/jpn/doc/mgrt/16mgrt.htm>) で読めます。

**聖パウロ女子修道会(聖パウロ書院)からお知らせ**

**「ロザリオの祈り」**

日時 毎月第2日曜日 午後2時から。  
11月13日、12月11日

**「読書会」**

日時 毎月第3土曜日 午後2時～3時30分  
11月19日、12月17日

場所 いずれも聖パウロ書院

対象者 どなたでも参加できます。

問合せ ☎052-936-4443 担当・Sr永峰、Sr森

**グレゴリオ聖歌による死者のためのミサ**

日時 11月23日(水・祝) 午後2時

場所 カトリック東山教会 名古屋市千種区唐山町1-52

司式 暮林 響神父(神言修道会)

主催 グレゴリオを歌う会・菅沢 淳子

連絡先 ☎0561-84-9156 菅沢

**第7回チャリティーコンサート**  
「みことば・祈り・うた」

東日本大震災で犠牲となられた方々への鎮魂、および復興のための祈りと聖歌を奉げます。

日時 11月23日(水・祝) 15時30分開場  
16時00分開演、18時00分終演

場所 カトリック南山教会大聖堂  
名古屋市昭和区南山町11  
地下鉄鶴舞線「杖中」駅下車徒歩5分

出演 南山大学附属小学校聖歌隊、聖霊中学校聖歌隊

曲目 「いのち」「カッチーニ伝・アヴェマリア」  
「私をお使いください」ほか

入場 無料

主催 南山大学附属小学校聖歌隊

問合せ 西脇 良神父 ☎052-836-2900

**『今こそ原発の廃止を』**  
—日本のカトリック教会の問いかけ—

本書は日本司教団が、核エネルギー利用の歴史をひもとく、原発事故の当事国の責任を問い、核技術に関する科学的な解説にカトリックの教理と現代のエコロジーとを踏まえて核をめぐる倫理的な考察を展開し、最後に自然エネルギーの可能性に言及して新たなライフスタイルへの転換を呼びかけている。

編者 日本カトリック司教協議会「今こそ原発の廃止を」編集委員会 定価 本体1800円+税8%

問合せ・ご注文 カトリック中央協議会・出版部 ☎03-5632-4429/FAX 03-5632-4456

**新刊書のご案内**

**『かみさまきいてね よるのいのり』**

発行 女子パウロ会 918円(税込)

問い合わせ先 聖パウロ書院 052-936-4443

子どもたちが、神さまの優しさを見つける、お祈りのかわいい絵本。表紙には、プレゼントのお子様への名前が書けるようになっています。

どこにも へいわが ありますように  
へいわが みんなに ありますように。  
せかいじゅう うちじゅう、  
やまにも まちにも どこにでも  
かみさまと いっしょの へいわ。  
イエスさまが くれる ほんもの へいわ。(本書より)

**日本カトリック障害者連絡協議会主催**  
**第12回研修セミナーのご案内**  
テーマ「平和をつなぐ…私、そして私たちの選り」

今のこの世の動きの中を わたしたちは本当に真剣に考えているのでしょうか。障がいがある無いかかわらず一人の人間として、「平和とは何か、平和を次の世代につないでいくためには…」と、松浦悟郎司教と一緒に考えていきませんか。

日時 11月19日(土) 午後1時半～4時半

場所 カトリック南山学園研修センター  
〒466-0834 愛知県名古屋市昭和区広路町準人30 TEL 052-837-6466  
地下鉄鶴舞線「杖中」駅下車2番出口 徒歩10分

講師 松浦悟郎司教

定員 50名 参加費 無料(自由献金)

申込 資料準備のため10月31日(月)までに、申込用紙に必要事項を記入の上、郵送またはFAXで。

主催 日本カトリック障害者連絡協議会

申込先・問合せ先 〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15  
名古屋教区社会福祉委員会内 日本カトリック障害者連絡協議会  
TEL (052)852-1426 FAX (052)852-1422 担当:村上

—御父のいつくしみに支えられて—

